



2017年版

第5回 **日本「住みたい田舎」ベストランキング!**

子育て世代が住みたい田舎

第**1**位

若者世代が住みたい田舎

第**1**位

栃木県

栃木市 とちぎし

子育て点数 **38.36**点

若者点数 **24.92**点



面積 331.50km²

人口 16万2845人(平成28年11月現在)

平均気温 15.1℃

アクセス 東武鉄道特急で栃木駅まで、浅草駅から約65分、新宿駅から約70分。車の場合は東北自動車道川口JCTから栃木ICまで約45分。
☎住宅課定住促進係 ☎0282-21-2452

歳の街の文化と郊外の自然 人の魅力豊かな街は支援も充実

都心から100^{キロ}圏にありながら、住宅取得への助成など手厚い移住支援策を持つ栃木市。幼稚園・保育園から高校まで学校も多く、子育て世代には長い目で見て安心感が強い。

文／新田穂高 写真／曾田英介 写真提供／栃木県栃木市

子育て世代が集まる ゆったり便利な住宅地

三枝さん夫妻は3人の子育て中。住まい選びも子ども中心だ。「公園や小学校が近く、同じ子育て世代がたくさんいるところを探しました」

と絵美子さん。栃木市の新居は公園が目前で、子どもたちの友達もすぐできた。

「お姉ちゃんが通う幼稚園も楽しそうだし、小学生になっても近所の子と一緒に通えます」

幼稚園に行っている間は妹た

ちを連れ、家から1^{キロ}ほどの場所にある地域子育て支援センターに行くことも多い。

「未就園児も行ける子育ての施設はたくさんありますね。お休みの日はパパやおじいちゃん、おばあちゃんと永野川緑地公園や総合運動公園に行きます。どちらも2^{キロ}ほどで近いですよ」

栃木駅までは3^{キロ}ほど。周囲は畑の広がるのどかな場所だが、スーパーや小児科医院などは1^{キロ}圏内にある。

栃木市内には中学校はもろろん、高校も公立7校、私立1校



↑元百貨店を活用した市役所本庁舎の立体駐車場からの眺め。市街地の向こうに太平山を望む。



ご近所の友達増山真利奈さん(23歳)、陽菜ちゃん(1歳)と。住宅地の周辺は畑、向こうに山並みを眺める。

栃木市のアンケート結果

総合部門	69 / 82項目
若者部門	18 / 19項目
18点+(若者移住者数1人×0.02) =18.02点	
18.02点+(総合69点×0.1) 若者部門点数 24.92点	
子育て部門	30 / 37項目
30点+(子育て世帯移住者数73人×0.02) =31.46点	
31.46点+(総合69点×0.1) 子育て部門点数 38.36点	
シニア部門	20 / 23項目

↑栃木市は子育て世代が住みたい田舎部門と並んで、若者世代が住みたい田舎部門でも1位だった。

三枝さんが利用した 栃木市の支援制度

□IJU(移住)補助金
基本額新築30万円+若年世帯加算
(本人または配偶者が40歳未満)10万円
+勤労者加算(市外勤労)5万円
+子ども加算(18歳未満)10万円×3人
=75万円

三枝絵美子さんが本音で採点! 栃木市の住み心地はズバリ何点?

89 点

移住補助金は子どもへの加算が助かります。保育園や幼稚園も多いです。雨の日も遊べるレジャー施設があるといいですね。



↑広いリビングダイニングを持つ三枝さんの新居で。休日は一家揃ってリビングでくつろぐ。

ただ今、栃木暮らしを満喫中! 移住者レポート

宮城県名取市から2016年に移住

みえだふみのり
三枝史典さん●35歳 絵美子さん●32歳
さき みるひ ちなつ
咲稀ちゃん●5歳 春陽ちゃん●1歳 千夏ちゃん●0歳



三枝さん夫妻は栃木市近隣の小山市と佐野市出身。史典さんの仕事のため宮城県に住んだのち、転勤で戻ったのを機に栃木市内の分譲住宅に移住した。

←住宅地内の新築建売を購入。敷地面積約64坪、延床面積約32坪。家の目の前は公園だ。



↑市立保育園の1つ「はこのもり保育園」。地域子育て支援センター、ファミリーサポートセンターなども併設されている。



↑市役所本庁舎1階の市民スペースでは、未就園時の親子を対象に、民間保育園の保育士による「おやこ保育園」が月2回開かれている。

があり通学にも困らない。栃木駅から北千住まで区間快速で約1時間10分。料金は890円。都内の大学などへの通学も可能な範囲だ。
また、栃木市では中学生までの医療費は、保険診療の自己負担を免除。満1歳から小学校

入学前の小児は、1回2500円のインフルエンザ予防接種費用助成も年度内2回まで受けられる。
「地域子育て支援センターではイベントも多いですし、子育て世代への支援は手厚いと思います。住みやすい場所ですよ」

子育て世代が住みたい田舎部門 アンケート内容

※2016年10月末日時点の情報での回答です。

編集部では都道府県庁、(一社)移住・交流推進機構(JOIN)の協力のもと、全国の市町村に独自のアンケートを実施。各自治体に、田舎暮らしに重要なポイントになる項目に回答してもらいました。栃木市が1位に輝いた子育て世代が住みたい田舎部門37項目をご紹介します。栃木市は若者世代(10代・20代・30代の単身者)が住みたい田舎部門でも1位でした。

子育て世代が 住みたい田舎 アンケート

37項目

- 2016年度(4月1日から10月末日時点)に移住支援制度を利用した子育て世帯の移住者がいる
※移住者数×0.02点を加算
- 合計特殊出生率が全国平均を上回る
- 子育て世帯を対象とした移住奨励金がある
- ひとり親家庭を対象とした移住支援策がある
- 子育て世帯を対象とした低価格の公営住宅がある
- 子育て世代への家賃補助がある
- 産院、産科、助産院のいずれかがある
- 不妊治療に対する補助がある
- 出産祝い金がある

- 小児科が市町村内にある
- 子育てヘルパー派遣や悩み相談などで子育てを支援している
- 待機児童数がゼロである
- 認可保育園がある
- 幼稚園がある
- 認定こども園がある
- 「森のようちえん」など、ユニークな幼児教育をしている施設がある
- 第3子以降は保育料無料など、条件によっては保育料の負担を軽減している
- 保育料を完全無料化している
- 病児保育を行っている施設がある
- 子どもの一時保育・一時預かりを行っている施設がある
- 義務教育中の給食費を無料化している
- 中学生まで医療費が無料
- 高校生まで医療費が無料
- 児童や生徒向けのスポーツ少年団や地域クラブなどの活動が盛ん

- 英語教育に力を入れている
- 小中高生を対象とした無料塾や定期的な補習などで学習を支援している
- 小中高生を対象とした海外への交換留学やホームステイを実施している
- 小中学校への通学にスクールバスを整備している
- 高校の通学費を補助している
- 小中高の一貫校がある
- 中高の一貫校がある
- 高校がある
- 進学校がある
- 部活動が県大会などで活躍している中学校・高校がある
- 高等専門学校・専門学校・短期大学・大学がある
- 大学進学者に対して、市町村独自の有利子の奨学金がある
- 大学進学者に対して、市町村独自の無利子の奨学金がある



↑「パーラートチギ」をスタートした4人。上左から時計回りに、店主の鯉沼俊さん(29歳)・都内の住宅設計会社、日用品販売店を経て、好きな雑貨を扱う店を持ちたいとUターン。大波龍郷さん(32歳)・街おこしにかかわりたいと大学卒業後にUターン。とちぎ市民活動推進センターを運営するNPOの理事。後藤さん、中村さんを巻き込んで「マチナカプロジェクト」を始めた。後藤洋平さん(31歳)・建築士として都内に勤務したのちUターン。地元不動産会社の建築部門に勤務。中村純さん(32歳)・都内の不動産会社に勤務したのちUターン。地元不動産会社の不動産部門に勤務する。



↑「やどかりの家」は市中心部の県庁堀沿いにある昭和25年築の古民家。移住体験宿泊費は1泊2000円、月3万円。

→蔵の街の通り沿いにある土蔵造りの商家を2軒目のお試し住宅として再生予定。安政3年築の登録有形文化財。通り土間が奥の住居まで続く。



- ※1 <https://www.facebook.com/parlortochigi/>
- ※2 <http://mach-i-naka.com/>
- ※3 <http://www.tochigi-akitenpo.com/>
- ※4 <http://www.kurara-tochigi.org/>
- ※5 <http://www.tochigi-akiya.jp/>



↑関根邸(左)は大正11年築の鉄筋コンクリート造りで、登録有形文化財。当主の関根氏が市に寄贈、BOWLSが市から賃貸している。隣は懐かしい風情の荒物店。



↑改装前の2階スペース。ここではギャラリーとして鯉沼さんが集めた雑貨などを展示する予定。



↑ワークショップで内装を白く改装した「パーラートチギ」。地元の野菜を使ったマリネサンドや大正時代をイメージしたカレーなどを提供する。

蔵の街に若い世代がつくる 新しい交流の拠点

平成の大合併で市域を広げた栃木市は、広大な遊水地からほつとする里山風景まで多彩な表情を持つ。中心は江戸時代、舟運しゅうによる商家が栄えた蔵の街。歴史的建物が多く残り、年間約56.5万人が観光に訪れる。蔵の街の大通りに面した大正時代の洋風店舗、関根邸を活用し、12月にオープンしたのが「パーラートチギ」。ランチの提供やギャラリー、シェアオフィスなどを企画運営するため、合同会社「BOWLS」を立ち上げたのは高校時代の同級生で、地元を離れたのちUターンした

3人だ。街おこしに興味を持って地元へ飛び込み、「マチナカプロジェクト」として、栃木のひとと文化、そして若者をつなぐさまざまなイベントなどを展開してきた。後藤洋平さんは言う。

「この街には若者を受け入れてくれる土壌があります。合併で市域が大きくなって、農家の協力で巨峰のジャムを商品化したり、可能性も広がりました」店の改装は市が行うが、内装のペンキ塗りなどはワークショップで仕上げた。これまでのつながりやフェイスペインクを通じた集まったのは60人以上。



↑地元の果物を活かしたジャム。今後も地域密着の商品を開発したいという。

「ここでも新しい人との交流が生まれました。栃木市はユニクロもイオンもある便利な田舎と言われているかもしれませんが、そういう場所ならほかにもたくさんあります。地域とかかわり人となれば、栃木市での暮らしはもっと豊かになります。このスペースは、そんな価値観を伝える場所になりたいんです」



↑かつて栃木市は江戸との舟運で栄え、陸路の日光例幣使街道に引き継ぐ中継点だった。川沿いの郷土館となっているのは明治の豪商「横山家」。



↑サクラや紅葉の名所としても知られる太平山。麓にはのどかな里山風景が広がり、ブドウづくりが盛ん。



↑市の南部にある渡良瀬遊水地は市民の憩いの場。カヌーやボート、サイクリング、野鳥観察なども楽しめる。



↑巴波川(うずまがわ)では遊覧船を運行。また、定期的に街歩きイベントも開催している。



↑鈴木市長を囲んで、市の移住定住促進担当の皆さん。移住体験から仕事・住まい探しまで。軽いフットワークで応援します！

住めば納得！ 栃木市の魅力

アウトドアスポーツが盛ん

蔵の街で知られる栃木市だが、太平山のトレッキング、みかも山のパラグライダー、渡良瀬遊水地のスカイダイビング、カヌー、熱気球、サイクリングなどアウトドアスポーツのフィールドにも恵まれている。

創業支援が充実

市、商工会議所、商工会が連携して「栃木市創業トータルサポート窓口」を設置。創業塾やチャレンジショップ開設事業などを行う。「栃木市空き店舗.com^{※3}」では空き店舗情報も提供。

市民活動を応援

地域での活動を支える拠点として「とちぎ市民活動推進センターくらら^{※4}」があり、ボランティアや、NPOなどを応援。情報収集、活動・交流の場を提供している。

鈴木俊美 栃木市長より 受賞メッセージ



すべての世代に住みやすい 街を目指し若い人の新しい 挑戦を応援します

市では高齢者も安心して住める「まちなか定住」にも補助していますが、郊外の家が空き家になるのは寂しい。若い世代は車を使い、広いところで子育てしたいですから、世代間で活用できたら始めたのが「空き家バンク^{※5}」です。ただ、蔵の街のイメージはシニア層に受けると思っていたので、どの世代も住みやすい街づくりが評価された今回の結果はうれしいです。今、若い人たちが蔵の街に注目し、新たな街づくりに挑戦しています。大いに期待していますし、応援していきたいですね。

Information

栃木市都市整備部
住宅課定住促進係

③栃木県栃木市万町9-25

☎0282-21-2452

e-mail:jyutaku@city.tochigi.lg.jp

栃木市ホームページ

<http://www.city.tochigi.lg.jp/>

あったか住まいるバンクホームページ

<http://www.tochigi-akiya.jp/>